2025年度　東京すくわくプログラム 実施報告書　　北区立赤羽台保育園

1. プログラム名

自然探究 ～不思議や面白さを見つけよう～ そして、みんなで地球について知ろう

2. 実施目的

本園では、開園10年となり、これまでの競技場のような平らな園庭から、命が生まれる自然を感じる園庭への改修を行った。その機会を、自然探究への学びへとつなげるために、子ども一人ひとりが、身近な自然環境の中で「不思議」「面白い」「なぜだろう」と感じる体験を通して、探究心や命を大切にする心を育むことを目的として本プログラムを実施した。

特に、自然環境は人が一方的につくるものではなく、さまざまな小さな命が関わり合いながら成り立っていることを、体験的に理解していくことを大切にした。また、環境を整えることが生き物の生存につながることを知り、自分たちの選択や行動が環境に影響を与えることに気づく機会とした。

3. 実施期間

令和7年10月～令和8年3月 （園庭改修：9 月初旬完成／遊び・観察開始：10 月下旬）

4. 対象年齢

全園児（乳児・幼児） ※主な探究活動は年長児を中心に実施

5. 活動内容

(1) 環境整備（園庭改修）

従来の硬く乾いた園庭を、子どもたちが安心して過ごし、自然と出会える憩いの場とするため、園庭の改修を行った。約 100 種類の植物を植え、子どもたち自身が種を蒔き、成長を見守ることができる環境を整えた。

その結果、虫や鳥が自然に集まるビオトープ的な園庭となり、ダンゴムシ、ミミズ、ヤモリ、トカゲなど、さまざまな生き物との出会いが生まれた。

(2) 自然探究活動

- 季節の変化を感じながら植物や花、実のなる木の観察
- 園庭・公園の虫や生き物の発見・観察・飼育
- 園で見つけた生き物をもとにした「虫図鑑づくり」を目指す

乳児・幼児が共に生活する中で、植物の実を摘んでしまう場面などの難しさもあったが、それも含めて「命との関わり方」「共に過ごす距離感」について考える機会となった。

(3)ダンゴムシ探究活動(年長児)

園庭や公園にいるダンゴムシに着目し、住処や季節による違いについて探究活動を行った。

実施日時:2026年1月～2 月末　場所:　赤羽台自然観察公園

- ダンゴムシの生態や住処について映像で学ぶ
- 冬の公園でのダンゴムシ探し(仮説を立ててから実施)
- 見つけた場所・見つからなかった理由についての話し合い
- ダンゴムシを土とともに持ち帰り、飼育・観察コーナー作り

活動を通して、ダンゴムシの生態、食べ物や土の中の微生物など、命のつながりについて調べ、環境全体の大切さへと学びを広げていった。

6. 子どもたちの姿・学び(評価)

本プログラムを通して、子どもたちは自然環境を「遊びの場」としてだけでなく、「考える対象」として捉えるようになっていった。

土の下、草むらの下など目に見えない場所に生き物たちが越冬しているのを感じた。「ここにもいるかな～」「ここは、コンクリートだから誰もいないね」「日当たりのいい場所の方がいたよ」などと話していた。

初めの話し合いでは「冬だからいないよ」「見つけられないと思う」という想定をしていた子どもたちも多かったが、実際には、フェンスの境の小石の裏などにいた。一人が見つけるとおなじようなところを友達と探し始めた。見つけたことにとても喜んで、帰園後も何度も他の担任へ話していた。その後も、戸外遊びの度にダンゴムシ探しを行っていた。その中で「夏のダンゴムシよりも小さい」「どうしてだろう」と疑問が次々に上がった。

子どもたちの姿・つぶやき(抜粋)

- 「ここ、じめじめしてる。ダンゴムシのおうちっぽい」
- 「落ち葉がご飯と言ってたから、落ち葉の下探したら土のような細かい落ち葉がある」
- 「夏と同じところにいないね。どこに行ったんだろう」「夏は、うじゃうじゃいたよ」
- 「いなくなったんじゃなくて、もっと下にいるのかもしれない」
- 「木の皮が住処になると言ったよ。木の皮も拾っていこう」
- 「夏のダンゴムシは大きくてうじゃうじゃいたのに、今日見つけたのはみんな小さいね」
- 「フェンスの境目を掘ったらいたよ」「この場所は、日が当たってるよ」

- 「『霧吹きで水をかける」とYouTubeで言ってたよ」
- 「ケースの中には、土や落ち葉、木の枝、皮いろいろあるね」「公園と一緒だ」
- 「ペットボトルや缶が落ちてあった。」「お菓子の袋もあったよ」
- 「ゴミを食べて鳥が死んだニュースを見たよ」

これらの言葉から、子どもたちが生き物の立場に立って環境を捉え、自分なりの理由や仮説をもって考えていることがうかがえる。

年間を通して、公園や園庭という日常の環境の中で生き物と出会い、関わり遊んだ経験の上で、夏と冬の違い、冬は簡単に見つからなかった経験をすることで、子どもたち自身が問いを生み出し、考えを深めていく姿が多く見られた。

また、小さな命を観察する中で、ダンゴムシの食べ物、その食べ物を生み出す落ち葉や微生物、さらにそれらを育む土や自然環境、環境保護へと関心が広がり、「すべてがつながっている」という気づきが生まれていった。

乳児の姿（0歳児）未満児の姿（1～2歳児）

乳児クラスの子どもたちは、園庭で土や葉に触れたり、虫を見つけて立ち止まったりする中で、身近な自然への興味関心を育んでいった。実を摘んでしまう姿や、虫に驚く姿も見られたが、その一つひとつの経験が、命との出会いの第一歩となっている。

未満児は、朝に夕に園庭に出て遊んでいる。砂場遊びにも広がりが見え、堀ったり、埋めたりしながら土や砂、そこに生きている虫に出会う体験が

活動を重ねる中で、子どもたちは

- 生き物が生きられる環境条件（場所・季節・食べ物）に気づく力
- 正解のない問いについて考え続ける姿勢
- 自分たちの行動や選択が環境に影響を与えることへの意識（ペットボトルや菓子のゴミを見て、場所によっては多いところがあると気付いた）
- 自分達が遊ぶ公園は、ゴミのない公園にしたい

を少しずつ育んでいった。

7，土の中の小さな命は、落ち葉や有機物を食べ、土を豊かにし、自然の循環を支えています。こうした体験を通して、SDGsの目標15「**陸の豊かさも守ろう**」にもつなげながら、子どもたちが地球に生きる一員として、いのちのつながりや成長を学んでいけるよう取り組んでまいります

公園内に落ちていたお菓子のゴミやペットボトルと葉や石、枝などその場で落ちているものとの違いを話し合った。このゴミはどうしてここにあるのか、私たちはどうしたら公園に住んでいる虫たちが

ずっと住み続けられるのか問いかけをすると「ゴミを出さない。」「ちゃんと捨てる」「公園をきれいにする」などの意見があった。

7. 成果と今後の展望（園としての評価・課題）

園庭という日常の環境を見直し、自然と共にある空間へと整えたことで、子どもたちの遊びや関心は大きく広がり、自然を起点とした探究活動が日常的に生まれるようになった。

一方で、乳児と幼児が共に過ごす環境においては、植物や実の扱い方など、年齢や発達に応じた関わり方を大人が丁寧に支えていく必要性も改めて確認された。

今後は、季節ごとの継続的な観察や記録を重ねながら、生き物が集まる環境を「守り続ける」視点を大切にし、子どもたちと共に『どのような環境が命を育むのか』『私たちにできることは何か』を考え続けていきたい。

今回の取り組みは、「自然たんきゅう ― おもしろい・ふしぎにであおう ―」というテーマのもと、子どもたちが身近な自然の中で感じた「なぜだろう」「どうしてだろう」という小さな疑問や驚きから始まった。大人が答えを示すのではなく、子ども自身が気づき、考え、試し、また新たな疑問に出会うという過程を大切にすることで、自然への関心は次第に深まり、自分たちを取り巻く環境へのまなざしも変化していった。子どもたちにとって自然は、観察する対象ではなく、自分たちが関わり、影響し合う存在として感じられるようになっていった。

今後は、「いのちがつながる庭」での経験を日常の保育へとさらに広げ、季節の変化や生き物との出会いを継続的な探究へとつなげていきたいと考えている。特別な活動としてではなく、子どもたちの生活や遊びの中に自然があり、気づきや問いが自然に生まれる環境を整えていくことで、子どもたちが自ら環境とかかわり、いのちを大切にしようとする気持ちを育んでいく。これからも、子ども一人ひとりの「おもしろい」「ふしぎ」という心の動きを出発点に、自然と共に育ち合う保育を継続していきたい。人間教育の土台を培う場である保育園が、生物の命にあふれる環境は必須であると感じている。生まれたての子どもたちが、住みやすい場、安心の場＝自然とも言えるのではないだろうか。自然への関心を広げ、他者や環境を思いやる心を育む土台となる。人工的につくられた空間から、命を感じられる場へと環境を育てていくことは、未来の地球環境を守ろうとする意識へとつながっていくのではないかと考える。

今後も本プログラムを継続し、誰もが自然とのつながりを感じられる保育実践として発展させていきたい。

今後の予定
＊だんごむし観察コーナーの充実をどんどんさん（5 歳児）たちと計画していく。

＊みみず観察コーナーについて話し合いをしながら、子どもたちと進めていく。

園庭改修事業について
園庭改修業者
　株式会社スマートエジュケーション　担当者　比留間桂一様　　竣工年月日令和7年7月

　・子どもたちが10月から遊び初め、築山の土が削られ、土砂の流出防止のために改修工事を行う。
・子どもたちの動きが予想以上に活発で動線を固定するために、階段を3か所、また、石段を2か所配置した。
・一部、植物の育成のためにロープを張った。

　エール株式会社　　関東営業所　　担当者　大澤宏至様　　改修終了時　令和8年3月29日

以上

【園庭改修】

before

after

【活動の様子】